

社会医療法人 あさかホスピタル 森の棟

福島県郡山市

設計・監理／共同建築設計事務所
施工／フジタ・オオバ特定建設工事共同企業体



森の棟南側外観 手前からI期・II期と順次建替えを行った

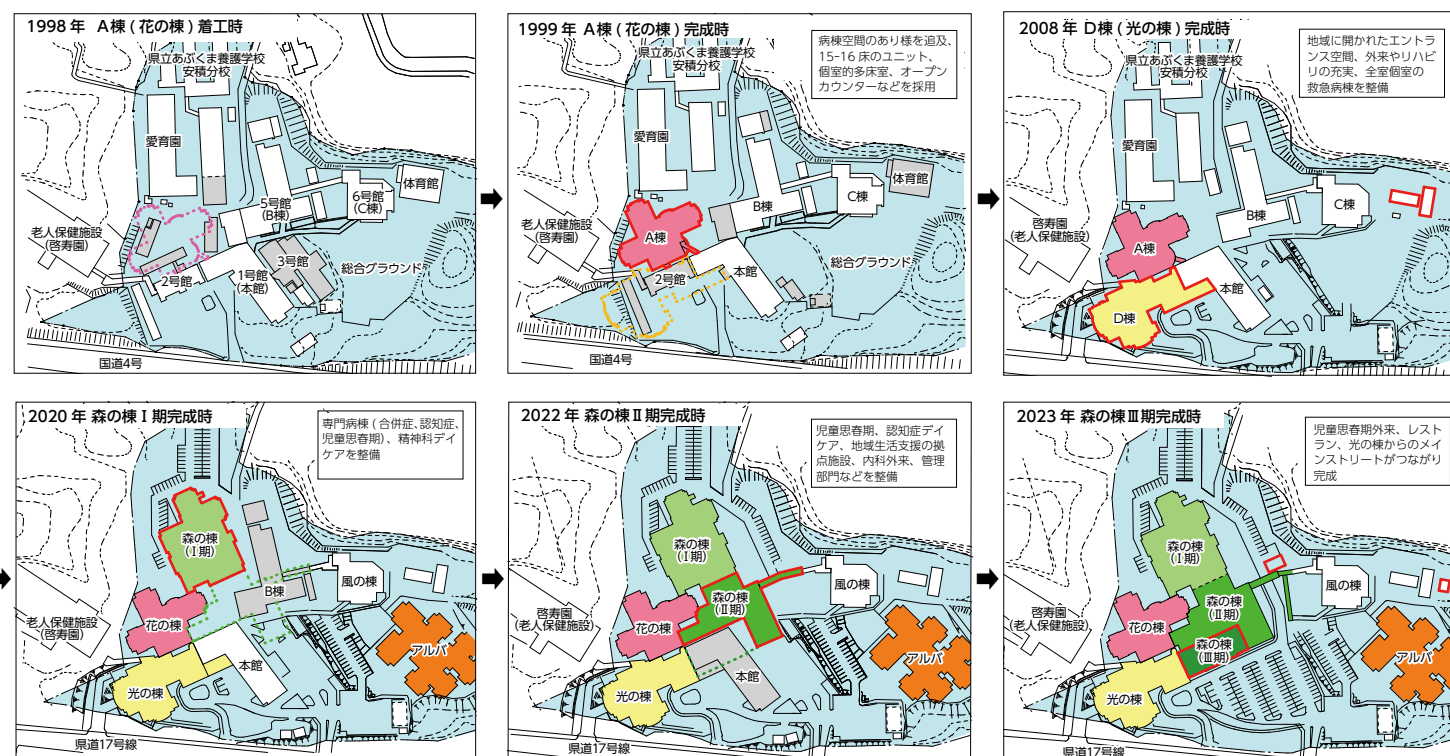
設計主旨

一 全面建替え25年の道程

1996年に病棟建替えのプロポーザルに参加してから四半世紀、2023年9月「森の棟」完成により、敷地内建物の全面建替えが完了した。森の棟は3期・4年8カ月の期間をかけ既存建物2棟を活かしながら順番に建替え、すべ

てをつなげるという難しい工事となった。I期は既存棟にあった病棟、これに付随する機能とデイケア、II期は内科外来と薬局、講堂を、III期で児童思春期の外来部門、院内レストランをつくり、「光の棟（2008年竣工）」「花の棟（1999年竣工）」と順次接続することで、各工期で病院機能を止めることなく完成に至った。

アプローチ側の外観は低層におさえ光の棟のエントランスと連続させ、訪れる人を圧迫感なく迎え入れる表情をつくった。十分と言えなかった建物前面の駐車場も広がり、患者・家族も利用しやすくなり、毎年開催される「あさかフェス」などのイベント会場にすることもできるようになった。



あさかホスピタル 25年の変遷(1998年～2023年)



既存棟とのつながりにより生まれた光庭

上／メインエントランスのある「光の棟」につながる「森の棟」 下／児童思春期病棟個室前の談話スペース

一 専門病棟の階層構成

病棟は「児童思春期」「認知症」「身体合併症」という性格の異なる専門病棟を同形の構造体の中に納めている。クローバー型の個室的多床室を放射状に配置し、それぞれの病棟にふさわしい病室構成とした。2階の合併症病棟はベッド上の処置が必要となり、ベッ

どまわりのスペースを確保した。3階の認知症病棟は個々のテリトリーを明確にし、デスクやチェストなどをしつらえた。児童思春期病棟は個室化し、ユニット中央部にこどもたちのスペースを確保した。

ア、認知症デイケア、児童思春期デイケアを配置した。各部屋は総じて木に囲まれ自然光が潤沢に入る建築構成とし、共通の庭を設け異なる年代が交流できるようにした。児童思春期外来は児童デイケアと連携できるように構成とし、こどもたちが安心して診察を受けられる環境を用意した。



2階 身体合併症病棟
病棟ユニットの各階構成

3階 認知症病棟

4階 児童思春期病棟

ー アートの「森」

「森の棟」は、敷地の隙間を利用して期ごとに既存B棟・本館の機能を移し替えながら建替えをしたため、病院機能を効率的に充実させるだけでなく、機能をつなぐことでこれまで以上に豊かな「ゆとり」の空間を生み出し、ストレスが多いであろうスタッフのための専用空間を充実させることができた。また、あさかホスピタルグループは様々なアート活動をとおりて豊かな社会をつくることに成果を上げているが、この建築内外の「ゆとり」を利用して、その活動を支援することも今回のテーマのひとつとなった。

(鈴木慶治、山田明子/共同建築設計事務所)



1階メインストリートの壁に描かれた、アート作品の製作風景

施工計画

本計画は福島県郡山市の安積に位置し、古くから地域に根ざした、この地域の心のセンターとして親しまれている「あさかホスピタル」の改築工事である。2019年3月に工事を着手して1期工事から3期工事までの4年半、狭小地のエリアの中、新築工事と、解体工事を繰り返し実施し、2023年9月末に無事竣工した。

当工事は、運用中の病院敷地内に、森の棟を3期にわたり建設するもので、既存病棟への通院者、来院者の安全を第一に考え、病院関係者と密にコミュニケーションを図り、第三者との区別を確実にし、安全に運用することができた。工程的にも非常にタイトなスケジュールであったが、労務の山積み計画を綿密に行い、さらに協力業者の方々のお力添えにより、スムーズな引き渡しが実現した。また工事期間中は、新型コロナウイルスや、物価上昇、世界情勢の変革に直接影響を受けたが、現場の創意工夫、施主や設計事務所の協力があり、何とか乗り越えることができた。

仮囲いには、医療と福祉の現場にアートの視点を取り入れ、より豊かで柔軟な環境づくりを行う「ホスピタルアート事業」の一環として、素敵な作品が展示され、現場や通行する方々の心を和やかにした。こうした一連の取り組みや地元JV企業との連携により無事に竣工を迎えられた。

歴史あるこの医院のプロジェクトに携わることが

でき感謝するとともに、この施設が末永く地域医療を支える存在であり続け、地域と共に発展していくことを願う。

(寺島大地/フジタ)



上/2021年8月 2期基礎工事中 (写真提供:フジタ)
下/2021年12月 2期躯体工事中



寺島 大地……てらしま だいち

1988年宮城県生まれ。2011年東北工業大学建築学部建築学科卒業、同年フジタ入社。現在、同社東北支店建築工務部

社会医療法人 あさかホスピタル 森の棟 データ

所在地 福島県郡山市安積町笹川字総担45

主要用途 精神科病院

建築主 社会医療法人 あさかホスピタル

理事長・院長 佐久間啓



鈴木 慶治……すずぎ けいじ

1981年明治大学工学部建築学科卒業、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社代表取締役



山田 明子……やまだ あきこ

1999年東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻修了、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社取締役設計部部長

設計・監理 共同建築設計事務所

担当/総括:鈴木慶治 建築:山田明子

構造 織本構造設計 担当/中村幸悦、森本 淳

設備 アイ設計 担当/高橋 武、西原功大

施工 フジタ・オオバ特定建設工事共同企業体

担当/フジタ:溝口金次郎、渡部 剛、寺島大地
オオバ工務店:松本雅敏、小平典幸

設計期間 2016年5月~2019年2月

工事期間 2019年3月~2023年11月

【建築概要】

敷地面積 39,843.30㎡

建築面積 4,887.92㎡(森の棟)

延床面積 12,731.52㎡(森の棟)

建ぺい率 28.10%(許容60%)

容積率 73.83%(許容200%)

構造規模 RC造一部S造 地上4階(森の棟)

最高高さ 23.18m

軒高 22.58m

地域地区 市街化調整区域

【病棟概要】

診療科目 全8科

総合心療科(精神科・心療内科・児童精神科)、内科、神経内科、脳神経外科、放射線科、歯科、小児歯科、矯正歯科

病床数 142床(全体470床)

1床80室、3床2室、4床14室

1床当病棟基準階面積 27.50㎡(2・3階)

【設備概要】

電気設備 受電方式/3φ3W6.6kVA 変圧器容量/1,900kVA 予備電源/ディーゼル式非常用発電機(400kVA)

空調設備 空調方式/外気処理エアコン+電気式ビル用マルチエアコン 熱源/電気

衛生設備 給水/上水受水槽+加圧給水ポンプ方式 給湯/温水パイラー+貯湯槽、セントラル方式 排水/汚水・雑排水建物合流・合併式浄化槽(既存)へ放流

防災設備 消火/スプリンクラー設備・消火器 排煙/排煙窓による自然排煙 その他/自動火災報知設備・非常警報設備(放送設備)・誘導灯設備・非常照明設備

昇降機 寝台兼車いす用15人乗×2基 乗用11人乗×1基

特殊設備 ナースコール設備・監視カメラ設備・医療ガス設備

撮影/増田寿夫写真事務所

協力会社

仮設・土・コンクリート工事	光 本 工 務 店
型 枠 工 事	東 海 建 設
生コンクリート納入	藤 田 商 事
屋根・金属・樋工事	ホ シ カ ワ
金 属 工 事	メ タ ル ・ シ ス テ ム
アルミ製建具工事	不 二 サ ッ シ 東 北
シャッター・スチールパーテーションほか	三 和 シ ャ ッ タ ー 工 業
パーテーション・スチールウォール・レール工事	小 松 ウ オ ー ル 工 業
UB枠・コーナー材納入	カ イ ダ ー ・ ベ ー ス ボ ー ド 工 業



児童思春期病棟 食堂



子どもの心外来(児童思春期外来)待合



メインアプローチよりエントランスを望む。地域の伝統工芸「南部裂織」の市松柄をイメージしたタイル貼りの外観

設計主旨

十和田市内にある精神科病院の移転新築プロジェクトである。街の中心地にあった既存病院から少し落ち着いた住宅と田畑に囲まれた新敷地へ病院を移転した。豊かな自然をより身近に感じることができる場所で、周辺環境を取り込みながら、社会性を取り戻すための治療を行う病院を目指した。

一 風土に即した病院建築

十和田の市街地は、遠くに八甲田の山並みを望む平坦な台地の中に、整った街区が続く特徴的な街であるが、冬季における北西の季節風が強いことも地域性のひとつである。歩車共に雪や風を避けて安心して訪れやすいように、メインアプローチは病棟階の多角形のボリューム形状が張り出すピロティ空間の下にある主玄関へと誘導し、天候にかかわらずアクセスしやすい形態とした。機械室やサービス諸室

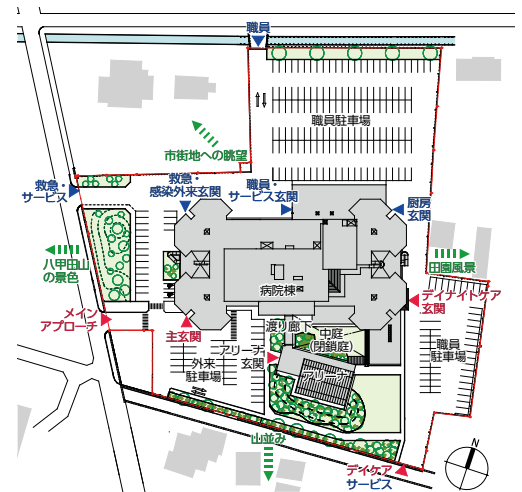
を病院機能と離れた配置とし、その間に屋内的な車路を通し、物品の搬出入やサービスアプローチを安全に行うことができたようにした。また、季節の温度変動だけでなく、朝晩と日中の寒暖差も大きいことから、年間を通じて安定した温湿度を保ちやすくするために、24時間・通年稼働する病棟部分に外断熱工法を採用した。一方で外来などの運用時間が限定される階は内断熱として空調の立上りを速くし、効率的にエネルギーを使えるようにした。

一 訪れやすい外来診療空間

エントランスホールは、間接照明を用いた明るく、十分な拡がりのあるホールの正面に総合受付を配置し、外部のタイルや軒天を一部引き込んだ街路的な演出をすることにより、初めて病院を訪れる方にも開放的でゆったりと感じられる空間とした。

外来診療部門は、エントランスホールから少

し奥まった位置に待合と診察室群をひとまとまりとして配置し、プライバシーが守られ、広すぎない落ち着いた環境とした。これとは別に、救急時や感染などに対応できる個別の待合と診察室も準備した。



配置図 縮尺 1/3,000



左／明るく開放的なエントランスホール 中／緑が見える落ち着いた外来の待合 右／鳥瞰 多角形のボリュームが特徴的な病院と屋根がシンボルとなるアリーナ*

社会医療法人 春回会 井上病院 外来棟

長崎県長崎市

設計・監理／共同建築設計事務所
施工／西海建設



南側外観 左から、本館、別館、外来棟

設計主旨

長崎市や時津、長与町を中心に、医療・福祉を担う社会医療法人春回会の本拠地「井上病院」の再構築プロジェクトである。長崎市中心部の国道沿いに立地する既存の本館棟・別館棟の並びに「外来棟」を新築し、救急や時間外を除く外来部門を拡張。本館で機能していた眼科は、手術室も兼ね備えたアイセンターとして生まれ変わった。また、外来部門が抜けた本館は改修を行い、救急や時間外外来の機能を拡張し、受け入れ環境を充実させた。

一 地域の拠りどころとなる、親しみやすい建築

国道側から1階の外壁を引き、上階が庇替わりとなる入りやすいエントランスとした。外来が1・2・3階の3層にまたがるため、メインエントランスを抜けると広がりのある待合を介して受付やエレベーターが目に入る、わかりやすい空間構成とし、安心して受診できる環境となるよう心掛けた。

外観は優しい色合いのタイルに、西日や騒音対策としてスリット状の窓を設けることにより、国道側に対して地域の顔となるデザインとした。インテリアについても、訪れる人があたたかな環境で過ごすことができるように

最大限自然素材を取り入れた。アースカラーをベースに、各階エレベーター乗降口前の床にはフロアごとのポイントカラーを加えた色彩計画とし、地域に親しまれる外来センターを目指した。

一 質の高い医療に対応できる環境づくり

2・3階は診察・処置室が並ぶ。多種多様な診療科に柔軟に対応できるよう、同様のつくりのブースを数多く並べ、状況に応じて診療科を設定できるようにした。同時に、専門的な処置を行う診察処置室や外来化学療法室なども配置している。

4・5階はアイセンターの機能を持つ。5階の外来はエレベーターを降りるとフロア全体を見渡せるプランとした。内装は壁と扉の色のコントラストの強弱を意識した色彩計画にすることで、視認性の良い空間で目に不安のある患者も受診しやすい環境とした。

コロナ禍を経て、感染症への対策を十分に取り入れている。玄関や階段、エレベーターは患者と病院スタッフの動線を明確に分け、診察室、処置室はそれぞれ個別に十分に換気する設備環境としている。感染症外来は井上病院本館に設けられるが、外来棟に来院した発熱患者に対応できるよう、エントランス脇

に予備診察室を備えた。専門的な検査室や手術室のある本館との間には専用の通路を設け、連携を図る計画とした。

災害時にも医療を継続できる十分な容量の発電機を設置し、遠隔診療等も対応可能な設備を整えている。

一 将来の変化に柔軟に対応する病院

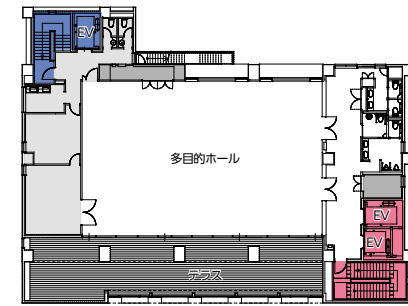
6階には、講演会やスタッフの研修、ミーティング、休憩スペースなど多用途に使用できる大きなホールを設けた。また、医療ガスアウトレットや非常電源を配置することで、災害時には診療スペースとして活用することも可能な計画とした。将来井上病院の機能を更新する際は、この6階ホールを一時的に別機能に置き換えて井上病院全体のリニューアルをサポートすることも想定している。

(鈴木慶治、山田明子、有泉朋華／共同建築設計事務所)

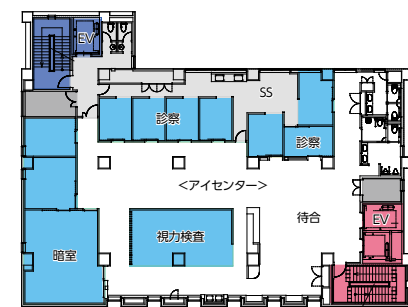




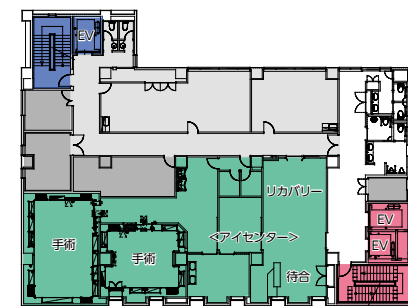
上/庇が日差しを和らげるメインエントランス 下/ポイントカラーが映える2階EVホール



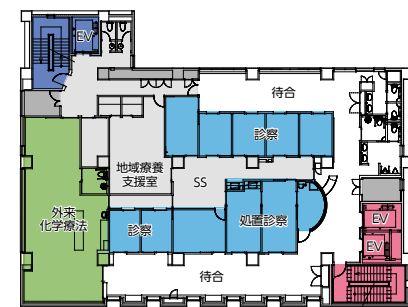
6階平面図



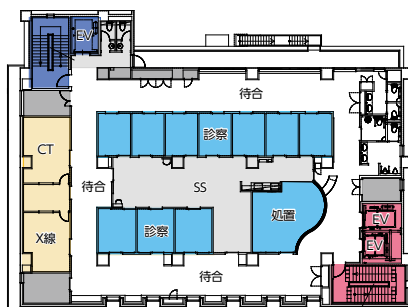
5階平面図



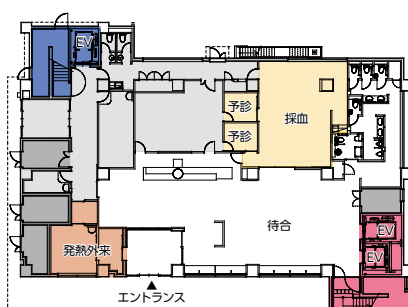
4階平面図



3階平面図



2階平面図



1階平面図 縮尺1/600



左上/光が差し込み開放的でわかりやすい1階待合 右上/外壁の凹凸をベンチに活かした3階待合 左下/5階アイセンター待合 右下/ホールに面するテラスからは稲佐山を望み、スタッフのリフレッシュエリアとなる



社会医療法人 春回会 井上病院 外来棟 データ
所在地 長崎県長崎市宝町6-6
主要用途 病院(外来棟)
建築主 社会医療法人 春回会
設計・監理 共同建築設計事務所
 担当/総括: 鈴木慶治 建築: 山田明子、有泉朋華
 構造: 川上俊二
設備 アイ設計
 担当/高橋 武(設備総括)、西原功大、椎名しのぶ
施工 西海建設
 担当/田中吉之、島袋大地、松川寛斗
設計期間 2022年6月~2023年2月
工事期間 2023年3月~2024年5月
[建築概要]
 敷地面積 810.00㎡
 建築面積 631.72㎡
 延床面積 3,389.33㎡
 建ぺい率 77.99% (許容80%)
 容積率 398.26% (許容400%)
 構造規模 RC造 地上6階
 最高高さ 28.00m
 軒高 25.06m
 地域地区 商業地域

[病棟概要]
想定外来患者数 196.8人/日
診療科目 全22科
 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科、精神内科、感染症内科、老年内科、内視鏡内科、人工透析内科、外科、消化器外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、大腸外科、外科(内視鏡)、皮膚科、眼科、リハビリテーション科、放射線科
[設備概要]
電気設備 受電方式/3φ3W6.6kV屋外キュービクル型受変電設備 変圧器容量/900kVA 予備電源/ディーゼル式非常用発電機(250kVA)
空調設備 空調方式/外調処理エアコン+電気式ビル用マルチエアコン
衛生設備 給水/受水槽+加圧給水ポンプ方式 給湯/ガス瞬間湯沸器(マルチ型)+貯湯槽/セントラル方式 排水/建物内合流・下水道本管放流
防災設備 消火/消火器・屋内消火栓 排煙/排煙窓による自然排煙 その他/自動火災報知機、非常警報設備(非常放送)、誘導灯設備、非常照明設備
昇降機 寝台用兼車いす用11人乗×2基、乗用兼車いす用15人乗×1基
特殊設備 監視カメラ設備、医療ガス設備

撮影/増田寿夫写真事務所

鈴木 慶治……すずぎ けいじ
 1981年明治大学工学部建築学卒業、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社代表取締役

山田 明子……やまだ あきこ
 1999年東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻修了、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社取締役設計部長

有泉 朋華……ありいづみ ともか
 2022年日本大学生産工学部創生デザイン学科卒業、同年共同建築設計事務所入社。現在、同社設計部



多目的に活用できる6階ホール



優しい色使いであたたかみのある3階外来化学療法室

協力会社

電気設備工事	タカラ電設
機械設備工事	フジエテック
PC緊張工事	建研
アルミ製建具工事	不二サッシ九州
金属製建具工事	曙産業
断熱工事	三和シャッター工業
木工工事	伸和建工
UB枠・サッシ・点検口・S8コーナークーナー材	野中木工所
カーテン	カイダー・ベースボード工業
カーペット	ケアコム